

## 『高知大学留学生教育』第13号の刊行に寄せて

### — 新型コロナウイルス禍と留学 —

高知大学国際連携推進センター  
センター長 新 納 宏

2020年3月下旬、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で、来日する予定だった外国人学生の交換留学が延期になり、海外に留学中の日本人学生も日本への帰国を余儀なくされている。大変な事態になったが、こんな中、あえて留学の意味を問うてみたい。

ここで言う留学は主に交換留学のことである。交換留学は長くて1年、多くはそれより短い。はじめの1か月は自分の宿舎を整備し、生活の基盤を作ることで精いっぱい。授業が始まっても、はじめの1～2か月は先生が何を言っているかわからない。ようやく授業が理解でき、友達もできて、生活に余裕が出てきたら、間もなく帰国となる。

交換留学生はほぼ間違いなく、学問のみならず人間的にも成長して帰って来る。留学を後悔している学生の話はほとんど聞いたことがない。欧米圏に留学していた学生はほとんどの場合、「授業での宿題が多く、単位をとるのが大変だったが、いい勉強になった」と漏らし、「日本の大学は甘い」とまで言う者もいる。アジア圏に留学した学生は「日本人であることを初めて認識した」、「日本というだけで興味を持ってもらった」、「毎日が異文化なので新鮮だった」、「歴史問題で意見されたこともあったが、人々から親切にされた」と日本再認識派が多い。

なぜ留学は人をひとまわり成長させるのか。

日本に留学している外国人学生に日本留学の理由を質問したことがある。学生は「自国は世界のほんの一部なので、知らない世界を探求する留学は自分にとって当たり前のこと」、「私の国では親の世代は自由に海外に行くことなどできなかった。親からも是非世界をもっと見てこい、と励まされた」、「日本の文化、特にマンガに影響された。実際に自分で日本を体験してみたかった」、「日本に限らず、世界中の多くの国を訪れ、文化を経験したい、自分が成長するために」、などが主な回答だった。

総じて異文化を体験できることで視野が広がること、そして、海外との比較により自国を再発見できることが交換留学の大きなメリットと言える。それにより人間的にも幅が広がる。

学習への意欲も増進すると思われる。多くの日本人学生が語学力不足を痛感し、語学学習を始め、中には次は本格留学したいという目標を持つ者もいる。また、異文化を体験したことで自分の研究課題を深化させるなどの効果もある。これらは、単なる海外旅行とは異なり、そこに生活し、友だちができ、学習を体験できる交換留学でこそできる体験と言えよう。

重要なことは、留学生にメタ認知機能が発達することだ。真っ暗な宇宙空間にいた宇宙飛行士が地球を「唯一の掛けがえのない」人間の住処と確信し、そこに国境が見えなかったように、将来世代が自分、自国文化を俯瞰的に見る能力を少しでも身に着ければ、大きな収穫である。

新型コロナウイルス禍により、グローバル化の進んだ世界が逆に国境を閉ざし始めている。折しも、欧米では移民を避け、異文化を警戒し、国境を強化すべきとのポピュリズムが広まっていた時期と重なった。新型コロナウイルス禍が終息した時、世界がグローバルな多文化主義をどう維持するのか、やや不安にもなる。異文化を体験しメタ認知能力が高まった将来のリーダーたちにも是非考えてほしい課題である。